28 JUL.2017

都政新聞 平田邦彦主宰「朝食の会」講話原稿

【２１世紀型の人財をどう育てるか】　石塚 隆正

１．自己紹介

２．現時点での結論
　　～２１世紀型の人財育成における教育の骨子

３．背景 ～ 産業資本の成長の限界、
　　金融資本でしか成長がはかれぬ故の暴走

４．背景 ～ 日本の場合

５．インターナショナルとグローバル

６．偏差値教育の導入で伸びがなくなった日本人

７．半世紀遅れの日本の人財育成

８．２１世紀型の人財育成

【２１世紀型逸材の例】

スティーブ・ジョブズ（アップル創業者）
ジェフ・ベゾス（アマゾン創業者）
ジャック・マー（アリババ・グループ創業者）
ポニー・マー（テンセント創業者）
アマンシオ・オルテガ（インディテックス創業者）
イングヴァル・カンプラート（IKEA 創業者）
ビル・ゲイツ（マイクロソフト創業者）
セルゲイ・ブリン（グーグル創業者）
イーロン・マスク（スペースＸ創業者）
マーク・ザッカーバーグ（フェイスブック創業者）
トラヴィス・カラニック、ギャレット・キャンプ（UBER 共同創業者）
ブライアン・チェスキー、ジョー・ゲビア（Airbnb 共同創業者）

【２１世紀型の人財をどう育てるか】（AS OF 28 JUL ‘17）

１．自己紹介

ご紹介賜りました石塚でございます。自分の事をお話しますと、どうしても手前味噌になりますので、お手許資料を配布させて頂きました。一番上に人別牒をお付けしました。

この経歴書ですが、私が一般社団法人 日中国際交流協会の監査役を務めておりまして、外務省から予算を付けて頂いているので、年１回監査報告書を作成・提出する訳ですね。従って外務省も監査役の人物をチェックしたいとの事で毎年経歴書を提出している訳です。

次行きましょう。私の半生が大雑把に書いてあるBIG LIFE２１という雑誌の抜粋記事をお付けしております。私の一回り上の先輩に杉田亮毅という日本経済新聞社の社長・会長をやり、今は日本経済研究センターの特別顧問をやっておられますが、まあ日経のドンですね。

母校の校友会の会長として杉田先輩には 大変お世話になっておりまして、その部下に社会部出身のWという記者がおりまして中小企業の経営者の盛大な人生、英訳してBIG LIFEですか？ そういう雑誌を出して中小企業の経営者を元気にしたいと活動している訳ですけれども、そのW氏から追っかけを受けまして、逃げ切れずインタビューをうけたというのが、その記事です。私の半生の要約版です。

それから、昨年７月に設立した私の会社のブローシャー、銀行の人事部の指示で中小企業の社長を渡り歩いているんじゃないぞ、お前は「いたばし倫理法人会」を１２０社からロータリー、ライオンズを凌ぐ２３０社まで持ち上げたんだから、世に資する「倫理経営」を内外に普及する(株)GLOBAL ETHICS（地球倫理）経営研究所を作れ、と行徳哲男先生という 松岡修造氏や下村博文先生ら日本を支える１８千人を育てた偉い先生に殴り倒されて、已む無く設立した訳でございます。挨拶状がブローシャの中に入っておりますので、後程ご高覧ください。

１９９９年・平成１１年に参議院のドンと言われた村上正邦さんが国旗国歌法というのを通しましたが、組織率１５％の日本教職員組合（日教組）が日本人生徒に対して、国歌「君が代」を斉唱し、国旗「日の丸」を掲揚する事は、日本人生徒の自主性に任せる事、個人の自由な自主判断に負う処であって、社会的躾として、また良い意味での道徳的強制・国民的義務として、具体的に教えることはできないと否定しておりますので、政治家が表に出て推進もできないだろうと、日の丸を掲げ・君が代を斉唱する運動を家庭の中から、市井の一角から厳かに、そして穏やかに推進してみようということで、一般社団法人 き

らめき日本をこの２月に設立致しました。私の理事長挨拶原稿を添付してあります。

次にいよいよ本日の課題でもありますが、グローバル教育研究所の渥美育子先生とのプロジェクト、２１世紀型人財をどう育てるか、をまあ夢中にと言ったらよいでしょうか、ご一緒に推進している訳なんです。

また、先程若干触れた倫理法人会ですけれども、個別企業の倫理経営の展開が倫理経済体制を齎し、２１世紀の資本主義をよい方向にもって行けるのは、日本および日本人かもしれぬ、しかも株主資本主義ではなく、公益資本主義、即ち、私で言えば倫理資本主義とも申して良いのですが、それを内閣府参与・元国連経済大使の原 丈二さん（私と同い年ですが）と共に 韓国済州島での平和と繁栄のための済州フォーラム（アジア版ダボス会議と言っておりますが）においてアジアから世界に向けて発信して来ましたので、その報告チラシ等をお付けしてあります。

後程触れますが、来年１月１７日の世界経済フォーラム・本物のダボス会議で、下村博文元文科大臣が倫理経営の進展が倫理経済体制を齎し、２１世紀の資本主義を良い方向に導いていける、との資本主義救済の基調講演を行うことになっているのです。

まあ、長くなりましたが、いろいろやっているというか、やらされている訳でございます。

２．現時点での結論：「２１世紀型の人財育成」における「教育の骨子」

グローバル教育者 渥美育子先生とのプロジェクト「２１世紀型人財をどう育てるか」の活動の中で、共鳴し・同様に考える「教育の骨子」は、次の通りです。〔Ⅰ〕の２ステップ・アプローチは、私の考える展開プロセスを、〔Ⅱ〕は、私の言葉で私なりに表現したものです。

〔Ⅰ〕２ステップ・アプローチ

（１）壮年以上 ～ まずは「人材改革」から「人財育成」へ

グローバルの意味と内容を理解するため、現状の自分という「人材」を「人財」に育成していく必要性を真に納得・理解する過程を経てから、具体的にグローバル「人財育成」のプロセスに進む。

まずは、「人材改革」プロセスで「国際理解教育」を、次に「人財育成」プロセスで「グローバル教育」を推進する。

（２）幼年 ～ いきなり「人財教育」＝「グローバル教育」、を推進する。

そのための家庭教育、（１）での親の「人材改革」を広く行い、その子供達に２１世紀型の「グローバル教育」を施すという同時併行的な教育改革を実施していかなければ、と思うのです。

〔Ⅱ〕グローバル教育における必要教育の骨子
下記の３項目を骨子とする。記述表現は、石塚におけるもの。

（１）独立自尊、他人の世話にならず、「グローバルな（地球規模的）」時代・世界の中で、自分で飯が喰える術（すべ）を学び、身に付けられる教育。

（２）２１世紀が求めるグローバルな（地球規模での）問題解決能力を実業の世界で学び、身に付けられる教育。

（３）日本興隆（日本の行く末）の絵姿（グランド・デザイン）を描き、実際に推進する能力を学び、身に付ける教育。

◆ 渥美育子先生のプロフィール（共同 P/J 推進中につき言及致します）

一般社団法人 グローバル教育研究所　理事長
株式会社 グローバル教育 社長、「国家ビジョン研究会」教育分科会副会長。
青山学院大学卒。青山学院大学助教授を経て、ハーバード大学研究員となる。
1983 年ボストン郊外で米国初の異文化マネジメント研修会社を設立。「タイム」誌に紹介されるなど一躍話題となり、数多くのグローバル企業で人材育成や世界市場戦略策定を担当。顧客企業には IBM、フォード、ゼロックス、デュポン、ユナイテッドテクノロジーズなどのフォーチュントップ大企業。

３．背景 ～ 産業資本の成長の限界、金融資本でしか成長がはかれぬ故の暴走

さて本題に入って参りましょう。２０世紀の終わり頃、日本で言えば１９９１年のバブル崩壊以降、世界全体でいよいよ工業化社会の成長に限界感が出て参りました。つまり工業化社会の成長に限界が見通せるようになってきた。「産業資本」の成長率に限界感が現れて来た訳です。

人口は増える、今世紀末には９７億人が地球上に存在する。インドいやいやアフリカのマーケットは未だ開拓されていない。にも拘わらず、環境破壊は著しく 新たなマーケットの拡大に限界感が出て来た。それを見越して米国や欧州の先進諸国では、資本の自己増殖に期待をかけた。

マルクスの言う「金貸（かねがし）資本形式」ですね。資本のロゴスに従い、お金を貸して利息を稼ぐ、あるいはお金を運用・投資して利鞘を稼ぐ、運用・投資対象としての「金融仕組み商品」を勝手にドンドン作り出すという「金融資本」の成長率でしか世界経済の成長率を支えられない事が明白になってきたのですね。

するとどうなるか！リーマンショックに象徴されるように金融資本の暴走に歯止めが掛からず、容易に金融恐慌が起こる。リーマンショック以上の金融破綻・恐慌が頻繁に起こるようになる。金融資本の膨張、謂わば、実物経済とバーチャル経済とのＧＡＰを埋めきれない。

不安定な２１世紀の経済環境をどうコントロールしていこうかと国連の常任理事国、先の大戦の戦勝５大国が現在でも裏から世界を動かしている訳ですが（金融マフィア、エネルギーマフィア、軍産共同体、もっと言えば、ロスチャイルド家。投資部門でロックフェラー家と資本提携しましたが、要するに１９・２０世紀と世界を動かしてきたジュー、ユダヤですね）、世界を背後から動かす主体である五大国が、どう世界経済の成長を維持するかという、敢えて言えば、我儘な自分中心の世界（中国で言えば「中華思想」という訳ですが）、そういう我儘な自分中心の世界で腐心しきっている。

だからこそ、不安定な２１世紀の資本主義をどうコントロールしていくか、どうしたら穏やかな成長を維持できるか。民間部門はもっと以前にこの不愉快な真実を認識している。そこでダボス会議のクラウス・シュワブ議長は、金融資本礼賛で踊る世界のビジネス資本家の集まり、企業価値が上がれば企業を丸ごと売り飛ばし、企業価値が下がれば平気で労働者の首を切るような経営者集団・ダボス会議をどう運営するか、実物経済とバーチャル経済との乖離をどう埋めていくかについて悩み抜いていた。

そこに今年のダボス会議で、下村博文元文科相が「世界を照らす日本の心」、道徳いや日本の倫理・倫理経営こそが そのＧＡＰを埋め、２１世紀の資本主義世界を落ち着いたものに導けるよとの提案に、それだ！と飛びつき、来年１月のダボス会議で基調講演を行うことになったというのです。世界を照らす、いや世界を救う日本の心、日本の倫理経営を世界の資本家・経営者に向け主張・提案する地合いに立ち至ったのです。

４．背景 ～ 日本の場合

他方日本は、世界の経営者の浮かれ姿を見ている場合ではないのです。２０５０年に日本の人口は３０％減ります。生産労働人口つまり働き手・労働人口は４０％減ります。付加価値総生産額・ＧＤＰは半分以下、

２５０兆円に縮小する。国際政治の舞台には立てないように戦後、５大戦勝国に導かれてきた。何も世界に訴えるものはない。世界は誰も日本など気に掛けない。Ｇ７どころではない、Ｇ２０からも落ちるぞと言われている。国際交易の条件面で日本の立場など欧米の狩猟・採集民族からは無視される。果ては米国または中国の属州に組み込まれる危険性が大いにある。このように国を思う人々が気に病んでいる。

日本の経済社会を切り盛りできる人財をどう育成するか！やっと志のある経済産業省の官僚の一部が動き始めてきたのです。既に第２次安倍内閣では「日本再興戦略（リバイバルプランとかストラティージックプランとか言われています）」が練られ、毎年部分見直しが図られておりますが、そこに２１世紀のグローバルな人財育成の、明確な筋道は読み取れないのです。

実はこの動きは、田中角栄元首相が最も信頼し重宝して用いた元事務次官の息の掛かった現役官僚達が経済産業省の人材を内閣府に送り込み、首相側近としての内閣府から統御しつつ、近未来戦略を練りつつあるのですが、現在の米国のハーバード・ビジネス・スクールや米国実務界での金融資本礼賛の考えそのものだと警告する要人もいるのです。

原 丈人さんは、ご自分でも仰ってますが、日本再興戦略を企画・主導している連中は、ほとんど株主資本主義の申し子で、米国型金融資本の育成・発展径路の中で発想しており、そこで遅れをとってはならないとの立ち位置なので、公益資本主義の話をしたり、もっと社中重視の経営に切り替えないといけない、国家運営もそういう視点で２１世紀に対応しなければ先行きが危ないよと意見すると、ポカンとしているとの事。

地球全体を俯瞰して問題を発見し、解決していく発想・考えの欠片もないという訳ですから、誠に困ったものです。アメリカン航空のＣＥＯが３４０億円の経費削減を行い、勿論、人件費圧縮・従業員の首切りを進めた訳ですが、それで褒賞ボーナスを２００億円先取りしてしまうなどどいう経営手法を素晴らしい・恰好良いとあこがれる官僚ばかりだと言うのです。

私も三菱銀行出身ですから大きな声では言えませんが、三菱ＵＦＪモルガン・スタンレー証券の親会社のモルガン・スタンレー証券では、株主重視の観点から１８６０億円の配当還元を行いますが、そのために８６０億円の借入をしてまでも内部留保１０００億円を取崩し、株主を繋ぎ止めようとしている。

これで国家百年の計、２１世紀の日本を託せる人財を育成できるのでしょうか？まったく困ったものです。その前に、地球全体を俯瞰す

る、つまり、GLOBAL という観点に 触れておきたいと思います。

5．インターナショナルとグローバル

少し話を本来の路線に戻しますが、２１世紀型の人財（私の場合は人が財産を産み出すという意味で人財と書きます）をどう育てるか、という場合、２１世紀は日本・日本人にとって、インターナショナル（国際的進出）ではなくて、グローバル（地球規模的俯瞰と問題解決）であるという環境設定が必要であるということを申し上げなければならないということです。

これは１０年程前に日本に戻られた渥美育子先生が、日本の大企業を見た時に、２１世紀の人財育成に関しインターナショナルとグローバルというキー・コンセプトが全く分っていないと嘆かれ、定義された TERMINOLOGY・用語なんですけれども、私なりに申しますと、

昔、本田宗一郎が北区十条で二輪の製造・販売を始めた時に、ミカン箱の上に乗って、マン島のＴＴ（ツーリスト・トロフィー）レースで世界一を目指すぞ、などど従業員を鼓舞して世界に出て行き成果を挙げる事、外国に進出し現地法人や海外支店での経営を発展させる事、これらを国際的進出・インターナショナルと言うのです。つまり日本と外国という２国間の視点、日本から外国へという視点ですね。

これに対して、２１世紀のグローバルな時代という場合のグローバルとは、例えば製造業の場合、原材料を世界で一番安い国で調達し、製造を行う労働力の質の高い国、しかも相対的に賃金の安い国で製造し、販売価格の高い国で販売する。これが地球規模というか地球全体を俯瞰し、製造の「地球最適化」を図るということになってくる訳ですね。

そのためには、原材料調達国の国柄、人種・民族、その考え方、労働に対する姿勢・民度・宗教・社会風土を理解して雇用する。製造拠点国でも同じように国柄、人種・民族、その考え方、勤労観・宗教・社会風土等を理解して雇用する。販売拠点国でも同様。各国の人々・従業員を経営という 同じ方向を向いて力を合わせて行くというマネジメントを執っていかなければ纏まらない。

そういう意味でのグローバルに・地球規模で活躍の出来る人、ですから現状から言えばイノベーター・革新企業家ですね。また、現状のレベルから言えば、グローバル時代のリーダーを育成しなければならない、ということになるのです。

日本から世界へ出て行く・経営を拡散していくインターナショナルと、

地球全体を俯瞰して問題を発見して解決する、あるいは地球規模での経営を展開するグローバルという用語の使い方、考え方・内容を区別して対応していかなければならない、という訳です。

６．偏差値教育の導入で伸びがなくなった日本人

大前研一さん、この人の発信する意見・評論は必ず世界中が注目するという、日本人で唯一敬服される人物がおられますが、まあ私と一緒に長唄を修めている璃音（りおん）ちゃんのお爺ちゃんですが、その大前さんが仰るには、日本人は偏差値教育の導入で自分の可能性・志・意志の底力をなくしてしまったと指摘されていますね。

たかが１６・７歳の頃の偏差値で、自分はこの程度のレベルだから、こういう大学のこういう学部で学んで、国家試験上級には受からないから民間企業に入社して、大学の成績は「優」が少ないから、上場企業ではなくて、これこれこういう会社に入社できたらいいなあ、と自分で自分の可能性や夢、野望などを簡単に捨ててしまう。日本国として大変惜しいことだと半ば憤慨されていますね。

松下電産（現パナソニック）創業者の松下幸之助は和歌山市立尋常小学校４年中退だと、本田技研工業創業者の本田宗一郎は浜松市二股尋常高等小学校卒だと、日本楽器製造の中興の祖・ヤマハ発動機創業者川上源一も高千穂商業高校卒だと（後に高千穂商科大学に発展したが）、オムロン・立石電機創業者の立石一真も熊本工業高校卒だと。これら偉大な経営者達は全て大学は出ず、自分の偏差値などトンと知らず、高い志を貫き、英語さえ喋れずにインターナショナルの尖兵となり、世界に認められる技術力・経営力を持って海外・世界に雄飛し、日本の国力と評価を高めた尊敬すべき存在であると。

偏差値教育はｔａｍｅな、つまり飼い慣らされた・牙を抜かれた・おひとやかな日本人を製造することには役立ったが、自然の内に人間の序列を、人間自体で若い時代に作り上げていくような社会が形成されるようになったと。２１世紀を生き抜く人財育成という観点からは、残念ながら国力衰退と日本人の底力を減退させるものだという訳です。

先程申し上げた「日本再興戦略」は立派な試みですけれども、文部科学省は初等中等教育局が一番の看板局で、明治の御一新以来、学習指導要領、いや敗戦後に米国ＧＨＱから押し付け指導されたものかもしれませんけれども、学習指導要領の範囲で先生が生徒に基本的教育を行う仕組みを崩していません。

皆さん、グローバルな人財を育成し、２１世紀の日本と地球を牽引し

ていってほしいという状況の中で、学習指導要領を超える人財が生まれますか？ 学校の先生を超える奇才・俊英・天才が生まれますか？

しかも我々は体験的に知っている。教育学部・学芸学部への大学入試競争率は一番低いんですよ。たかが２～３倍だ。法律学部・経済経営学部の競争率は２０～３０倍ですよ。医学部なんてとんでもなく高い競争率だ。しかも優秀な人は官僚になるし、次が民間に行く。フランスを見てくださいよ。成績が優秀で、しかも人物が優れた人から小学校の先生になるんですよ。

人間をよ～く理解してますね。**PENETRATION** と言って、子供は言語能力は未だ習熟していないけれども、大人を見れば 直ぐ人を見抜くのですね。だから人間的包容力というか、人間力、人物の確立している教師に潜在能力抜群の小学生を育ててもらうのですね。日本と違いますよね。

我々は「何だ、勉強の出来なかったお前が学校の先生かよ！」と馬鹿にしつつも、自分の子供が就学すると、先生・先生と擦り寄っていくこの矛盾！ これで日本が地球規模で戦えますか？

私の元の会社が２０年強サポートして来た第１５０代・１５１代文部科学大臣の下村博文さんが森 有礼以来ですねえ、教育改革に真剣に取り組んで、８７項目の同時改革プログラムを遂行していたのに、次の元プロレスラーの馳大臣、現在の松野大臣に至っては、官僚の方が大臣の器量を見抜きますからね、同時教育改革はボロボロになってしまいましたね。誠に残念。残念・残念とばかり言っていても始まりませんが、そういうことです。

７．半世紀遅れの日本の人財育成

やはりどう考えても「国家百年の計」は人を育てることであろうと思う訳です。資源の乏しい我国は、戦後の復興期において加工貿易立国として成長するため、規律正しく平均値の高い人財を大量に育成する教育制度と内容に特化してきたと思うのです。

しかし２１世紀の高度な情報通信時代、サイバー＆デジタル社会、つまり高度なインターネット社会には、一人の、いや一握りの個々人が、容易に国家規模を凌駕する経済を形成して莫大な富と雇用を産み出すような時代に突入しているのですから、平均値が高い人財を大量にではなく、極めて突出した少数の人財・天才を、しかも短期間に育成しなければならない訳ですね。

相変わらず学習指導要領に基づく画一的人財育成を基本路線とする

教育方式は、依然として 工業化社会のやり方のままであり、他の先進国に比し、おそらく２世代４０年以上の遅れをとっているのではないかと思うのです。

芸術やスポーツの世界では、学習指導要領の範囲を越えているので、世界的人財が出てきておりますね。学習指導要領という画一的規準で日本中を従わせるというのは、戦中の全体主義的発想に凝り固まったままであると言えないこともない。

果して２１世紀の世界で活躍できる人財を本当に輩出できるのか？そのための人財とは何か についてすら、人財を作り出す側の国が 明確な人財像・イメージすら持っていないのではないでしょうか！

世界をひっくりかえすような、それこそ天才が数人居れば良いという時代になりましたから（お手許資料の１枚目の「２１世紀型逸材の例」）、そういう天才・人財を養成すること、あるいは地球上のどこに行っても通用する人財を作り出す教育というやり方・システムの構築ですね、そういうイメージさえ持てないのではないかと危惧する訳です。

それから先程「きらめき日本」のことを申し上げましたが、道徳的躾、生活姿勢の問題ですね。学習する心構え・社会人としての礼儀作法・世の中で役割を与えられ、それを演じることで周囲に評価され、信頼され、自信を持って生きていく、そういう人間性を育むという意味での家庭教育が亡くなってしまったのではないか。その創生ということが非常に大事だと思います。

ゲーテがタッソーという２行詩の第３００・３０１行で言ってますね、「才能は静かな境地で築かれますが、人格は浮世の荒波に揉まれて築かれます」と。日本は子弟の教育については、家庭教育・親の配慮というものが厳然としてありましたが、高度経済成長の時代からでしょうか、消えて行ってしまいました。

社会生活においては、人に好かれなければ、生きていけないのだから、「かわいい子には旅をさせよ」とか「千じんの谷の獅子落とし」など親からの教育・家庭教育というものがあった訳です。日本も豊かなローマ帝国になって、悲しい衰退期に突入しているのですね。

それから私が母校の校友会の理事として、かなり心配しているのは、最高学府としての大学教育ですね。１０年前には、先程申し上げた私のポンコツ大学でも国際ランキングは確か４８位だった。昨年の理事会・評議員会で、国際ランキングが７３２位となったが、今やどこの国の学生も 我が大学の存在すら知らないよ、と申し上げたら、学長が

国際ランキングの基準が変わったのだとか、６００番代だとヌケヌケと言うのです。

答えのない実業の世界で、人々を動かして問題解決をしていく人財を育てたことがあるのか。正しい事を言ったって 人は動いてくれないよ、言う人の誠意誠実、熱意、常に言動の一致を良く見て、人はやっと そうかもしれないと心を動かすんですよ。それから更に興味を持って言い出しっぺの人間の言動一致を見て 初めて、自分もやってみるかな、ということになるんです。

グローバル大学で生き残れず、ローカル大学という 地域社会の生産性を維持・向上させる人材教育を主として担う、という文科省の定義に沿い、実業の世界の経験のない教授陣が本当に実務教育ができるのか、と詰問したら答えられない訳です。

公務員は行政訴訟で罰を受けない限り 首になることはないので、業績を何も出さずとも、雑誌論文一つも出さずとも、６５歳まで遊んで暮らせるのですね。まあ空いた口が塞がりませんね。行政罰を受けないために、卑近な例では 駐車違反で公の記録を残さぬよう気を遣い、勲何等かをもらえれば、教授として安らかな人生だったというような輩に、地球規模での人財育成が出来ますか？ 寂しい限りですね。

実業の世界でも民間企業でも行政でも、経済体制や構造が変化してしまったので、人の採用や人事考課・給与システム等を改革していかねばなりませんね。大学新卒者を一括採用していくシステムではグローバルな人財を適宜・タイムリーに雇用できません。

横並び均等なシステムはもう止めにして、世界中どこからでも傑出した理想的な少数の人財を高額な給与で、個別に、都度都度採用していく欧米の枠組みに変えていかねばならないのではないでしょうか。

本当に２１世紀に対応出来る優れたマネジメント（経営者）、リーダーがいないと民間企業は生き残っていけませんね。自分の会社や自分の業界しか知らない視野の狭い人々の集まりでは突然死しますね。世界中から人財を入れてグローバル標準を識り、国中に嵐を巻き起こすショック療法も選択していかないといけません。

ですから、我が母校を始めとして日本の大学には期待が出来ませんね。現場を知らない、グローバルという状況を知らない、知ろうとしない、そういう見ざる・聴かざる・言わざるのコケシ的存在が幅を利かしているのが大学の現場の実情です。全く困ったものです。

８．２１世紀型の人財育成

さて、回りくどいお話をして来ました。中間的結論をお話しようと思います。最初に触れた私の考える２１世紀型の人財育成における「教育の骨子」にやっと到達致しました。

我々壮年以上の存在は、既に生きる経験を積んで参りましたから、２１世紀のグローバル時代と言ってもピンと来ないのです。スマホ（スマートフォン）もＰＣ（パソコン）でのインターネット通信・物事の検索も取り付きにくく不慣れなため、ピンと来ないのです。

そういう人材には、まずは、「人財改革」を施す必要があります。自分達が置かれているグローバル情勢、「国際理解教育」を教養課程（リベラル・アーツ）として広く認識してもらう必要があるのです。

地球全体で経営を行う場合に、関係各国の国柄、人種・民族、その考え方、労働に対する姿勢（勤労観）・民度・宗教・社会風土を理解して、各国の人々・従業員を経営という 同じ方向を向き、力を合わせて行くというマネジメント能力を養っていかなければならない。

現代日本の家庭では、所謂家庭教育というものが放棄され、コストを掛けるのだから、学校の教師が社会的躾を含め包括的に教えるのが当り前だという風潮が蔓延しているのです。

これを家庭における親としての家庭教育がきわめて重要で、子供達が社会人として成長していくために必要不可欠な親の務め・レッスンだということを親が理解していく必要があるのです。ここを強めなければならない。

そういう思潮が一般に受け入れられてから、次なる２１世紀型のグローバル教育の段階に進む必要があると思うのです。同時併行して進める訳ですが、手順としては、そういう２段階のプロセスが考えられる訳です。

他方、幼年児童は、教育課程に進学すると同時に、いきなりグローバル教育に浸ってもらう。そこでは、渥美育子先生の特許とでも言うべき「文化の世界地図」と人類５千年の歴史との「マトリクス思考」で人類、いや人間というものを歴史と民族、宗教と社会規範という生活の内奥から社会科学的に、生活に根ざして理解するグローバル教育に一挙に突入し、人間の文化理解を基底に２１世紀の人類社会を肌で感じられる教育を、しかも英語を共通語とする地球規模での理解と、具体的働きかけの出来る実践的教育を展開していく。

だから、文部科学省の理解がとても重要なのです。ですが素っ頓狂な無理解も現に存在しているのですから、分かってもらえるように民間レベルで独自に推進していかねばならないとも考えているのです。

そこでの必要教育の骨子が、私で言えば、３つの項目に集約されて来ると思うのです。

（１）独立自尊、他人の世話にならず「グローバルな（地球規模の）」時代・世界の中で、自分で飯が喰える術（すべ）を学び、身に付けられる教育。

（２）２１世紀が求めるグローバルな（地球規模での）問題解決能力を実業の世界で学び、身に付けられる教育。

（３）日本興隆（日本の行く末）の絵姿（グランド・デザイン）を描き、実際に推進する能力を学び、身に付ける教育。

これらを真に、内容を充実させ、豊かな人間力を育み、グローバルに生き残っていける人財を育成する、そういう日本の実業教育の出来る社会形成を目指していこう、そのために 今 出来ることを粛々とやっていこうと活動している訳なのです。こんな所で私の活動報告に代えたいと思います。ご清聴、ありがとう ございました。

以上